

ELTiS™

English Language Test for International Students

受験ガイド

2021年度版

◆ELTiSオンライン個別指導
スタート!!

詳細はP.76

留学体験を
理想の進路へ

<http://tofl.jp/kokan>

トフルゼミナール交換留学帰国生センター・編

ELTiSとは?

【試験の目的】

ELTiSは、米国の中等（高校）教育を受ける留学生の英語運用能力を測る試験です。また、この試験は語学プログラムのプレースメントテストとしての使用も可能です。

この試験では次の5つの能力が測定されます。

- 1) 学校生活で使用される言葉を理解する。
- 2) 先生や職員の指示や説明を理解する。
- 3) 一般的な学習活動で使用される言葉を理解する。
- 4) 特定分野で使用される語彙・専門用語を理解する。
- 5) 各学習分野での課題や活動の説明を正しく理解する。

この試験を通して、留学生が有意義に留学生活を送れる英語学習の準備が整っているかどうか判断されます。

それでは、例題を通じて試験の具体的内容の確認を行きましょう。リスニング問題は、本番ではCDで音声流れます。本書では音声内容がテキスト上に記載されています。

音声教材をご希望の方はトフルゼミナールのホームページ内

● <http://tofl.jp/eltis/>

から音声を無料ダウンロードできますのでご利用ください。

【試験の構成】

試験はListeningとReadingに分かれます。具体的内容は以下の通りになります。

Listening

Part 1～4の4つのセクションで構成されています。

Part 1: Follow Classroom Directions

(クラスでの先生の指示を理解する)

このパートでは、留学生が先生のクラスでの指示や説明を正しく理解できるかどうかをチェックします（出題数は4題）。指示の内容は学校・クラス運営に関するものです。具体的には、まず活動内容を写した絵を見ます。それから先生からの3つの指示（A, B, C）を聴きます。そして指示内容を正しく表している絵を選択します。指示の長さは最大で30語です。

Part 2: Comprehend Mathematical Language

(数学の文章問題の内容・使用される用語を理解する)

このパートは、まず代数の文章問題の内容とその解決法の説明を聞きます（出題数は4題）。そしてその内容と解決方法を正しく表している計算式を選択肢A, B, Cから選びます。このセクションで大切なことは、数学の計算問題を実際に解く力を測るのではなく、この問題の英語での説明を正しく理解して、それを計算式と結びつけられるかをチェックします。したがって計算式の説明に使用される語彙・表現に慣れておく必要があります。

この問題で使用される用語には、基本的な代数用語（plus, minus, multiply, divided by, etc）や分数（fraction）、パーセント（percentage）などが含まれます。

Part 3: Understand Classroom Dialogue

(クラスで行われる会話を理解する)

このパートでは、クラスで行われる会話の主旨や詳細を理解できるかをチェックされます（出題数は3題）。まず会話を聞いて、そのあとでその内容についての質問に答えます。会話は先生と生徒の会話为主

アメリカンヒストリー・ ダイジェスト

はじめに

多くの米国交換留学帰国生より「現地ではアメリカ史の授業が大変だった」という声を聞きます。アメリカ史の授業は、読解力・語彙力養成のためにも、また留学生として留学先の歴史を知るためにもぜひ受講してほしい授業のひとつですが、アメリカ史自体になじみのない日本の高校生は苦勞することが多いようです。

そこでこのたび米国留学を目指す皆さんのために、トフルゼミナール世界史講師であり、アメリカでの滞在・留学経験を持つ北尾大輔先生に「交換留学生のためのアメリカ史紙上講義」をお願いしました。

留学準備のために、留学先でのサブテキストとして、ぜひご活用ください。

交換留学帰国生センター

第1章 1700年代までのアメリカ

1 はじめに

アメリカン・ヒストリー・ダイジェストへようこそ。これから皆さんと一緒に、驚きと魅力でいっぱいアメリカの歴史トラベルへと出発します。

はじめに、これを読んでくださっている皆さんは、アメリカ合衆国という国について、どのような印象をお持ちでしょうか。自由を謳歌し、夢に満ち溢れたチャンスの国…さまざまな人種の、多種多様な文化的背景を持った人々が共存するサラダボウル…いろいろなイメージが思い浮かぶことと思います。

少子高齢化、そして深刻な人口減少に悩むのが日本の現状ですが、世界の人口は爆発的に増える一方です。すでに70億人を優に超え、こうしているいまでも、1分間に約150人の割合で増え続けているのです。その中で、アメリカの人口はおよそ3億人を少し超えるぐらいなので、世界の人口の5パーセント程度です。であるにもかかわらず、世界の食料のおよそ3割を消費しているとも言われています。

カフェテリアに入り、順番に料理の皿を取っていかうとすると、いきなりサラダがわり?にポテトチップスの特盛!…最初からメンタルにきます。水が欲しくなり、水道の蛇口かなと思ってひねって見たら、そこからもの凄い勢いで飛び出したのは、色鮮やかなソフトクリーム様—これは私自身テネシー州に滞在して経験した記憶で、いまでも忘れることができません。

この国に長く滞在すればするほど、帰国のときは体重計を気にすることになるかもしれません。国民総所得は堂々世界第1位、石油輸入額も世界第1位、保有核弾頭は5,000発以上、まさに圧倒的な国力を誇るこの国も、歴史的には建国から250年弱の新しい国なのです。ただし、アメリカの歴史を本当に理解するためには、まずは建国以前の話から知っておく必要があります。

2 ヨーロッパ各国のアメリカ進出

多くの方が、アメリカは「イギリスの植民地」として出発したという認識を持っていると思いますが、それは半分正解と言えますが、完璧とはいえません。実はイギリスの他にも、この大地に魅力を感じ積極的に開拓をしたヨーロッパの国がありました。その国は主に3つ。オランダ、フランス、そしてスペインです。

1600年代は「オランダの世紀」と呼ばれているほど、オランダの繁栄は凄まじいものがあり、北アメリカ東岸に「新しいオランダ」という意味をこめてニューネザーランド植民地を建設していました。1625年には、ハドソン川のマンハッタン島に、オランダの首都であるアムステルダムにちなんで「ニューアムステルダム」という町を建設して北米大陸経営の拠点としました。この町が、現在の「The Big Apple」こと世界最大の都市ニューヨークなのです。

しかしニューアムステルダムは、1664年にライバルであったイギリス軍によって占領され、当時のイギリス国王の弟であったヨーク公ジェームズ（後の国王ジェームズ2世）にちなんで「ニューヨーク」と改称されました。これをもってオランダは、北アメリカ大陸における植民地争いからも脱落します。